

授業科目名	保育者論		
授業担当者名	渡辺 桜		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	本講義の到達目標は、保育者の役割・倫理・制度的な位置づけ、保育者同士の連携・協働について学ぶことである。また、保育者の専門性について遊び保育論をもとに理解を深め、理論に基づいた資質向上とキャリア形成への学びを深める。（「思考力・判断力・表現力等」◎、「学びに向かう力・人間性等」○）<232-2CH11-14>		
授業の概要	近年の社会背景、子育て家庭の状況を踏まえ、保育者に求められる役割、倫理について学ぶ。また、具体的な保育援助のあり方として、集団保育における幼児の主体的な遊びを保障する人的・物的環境の相互規定性について具体事例をもとに考察し、理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度(40%)、テスト(30%)、提出物(30%)などにより総合評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 授業の目的と講義内容の概要説明。参考書の紹介。 第02回 保育者の役割・倫理 おはなしの実演 グループディスカッション 第03回 遊び保育の重要性 養護と教育の一体性 保育者の制度的位置づけ おはなしの実演 グループディスカッション 第04回 遊び保育論の構成の基盤 集団保育における保育者と子どもの関係Ⅰ 第05回 集団保育における保育者と子どもの関係Ⅱ あつまり場面のビデオ視聴→遊び状況の読み取り 第06回 集団保育における保育者と子どもの関係Ⅲ あつまり場面のビデオ視聴→環境・援助・幼児理解 グループディスカッション・発表 第07回 集団保育における保育者と子どもの関係Ⅳ 模擬保育に向けた準備 指導案作成・実践準備 グループワーク 第08回 模擬保育に向けた準備 指導案作成・実践準備 グループワーク 第09回 遊び保育論の具体的展開Ⅰ 模擬保育・観察 グループワーク 第10回 遊び保育論の具体的展開Ⅱ グループディスカッション 遊び状況の読み取り・考察・発表Ⅰ 第11回 遊び保育論の具体的展開Ⅱ グループディスカッション 遊び状況の読み取り・考察・発表Ⅱ 第12回 遊び保育論の具体的展開Ⅱ グループディスカッション 遊び状況の読み取り・考察・発表Ⅲ 第13回 集団保育における保育者のモデル性 保育者の連携・協働 第14回 テストと解説 第15回 テストの講評と授業のまとめ 保育者の資質向上とキャリア形成 半期の授業を振り返る		
使用教科書	渡辺桜編「保育者論」(みらい) 「保育所保育指針解説」、「幼稚園教育要領解説」※授業時必ず持参すること		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	教科書と並行し、新聞記事からも、現在の保育や子どもについての理解を深めるので、いろいろな新聞社の記事に目を通しておく。(週60分) 模擬保育に向け、グループ内で情報共有を図り、実践の向けできることを各自で準備すること。(7回～9回 週60分)		

授業科目名	乳児保育演習		
授業担当者名	渡辺 桜		
単位数	1	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D P との関連)<ナバリングコード>	<p>本講義の到達目標は、めざましい3歳未満児の心身の発達の特徴を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。具体的には、養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法や環境について具体的に理解する。</p> <p>以上を踏まえ、3歳未満児における計画の作成について具体的に理解する。</p> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。</p> <p>（「問題解決能力」◎、「専門知識」○、「問題発見能力」○）</p> <p><232-1CHI1-08></p>		
授業の概要	<p>自分の要求を言葉で表現できない乳児期。泣く、笑う、体を動かす、ぐずるなどの表現を受け止め、代弁しながらあやす、なだめるという関わりが主となる。このような乳児期の発達過程の実際やそれに対する具体的援助や環境について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	授業態度(40%)、テスト(30%)、提出物(30%)などにより総合評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 乳児保育を学ぶにあたって 授業の目的と講義内容の概要説明。参考書の紹介。乳児のスキンシップ遊び実演。</p> <p>第02回 乳児保育の意義Ⅰ 保護者の就労や女性の社会進出から乳児保育の重要性について考える。乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第03回 乳児保育の意義Ⅱ 乳児の発達を保障する環境と援助。乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第04回 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的なかわり 乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第05回 月齢別発達0・1歳児 ビデオ視聴 乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第06回 月齢別発達1・2歳児 ビデオ視聴 乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第07回 乳児保育の物的環境 安全と情緒の安定。 生活の場、室内遊びの場、外遊びの場。乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第08回 乳児保育の人的環境 保育者と子どもの関係。子ども相互の関係。職員間のチームワーク。保育所・家庭・地域・社会との連携。乳児のスキンシップ遊び発表</p> <p>第09回 テストとまとめ</p> <p>第10回 テスト返却・解説・赤ちゃんおもちゃ発表Ⅰ</p> <p>第11回 赤ちゃんおもちゃ発表Ⅱ⇒学内展示⇒実習または子どもケアセンターで活用。 赤ちゃんおもちゃは、各自で製作しておくこと。乳児の心身の発達を促し、安全・衛生面にも配慮したものであること。子どもケアセンターでのボランティア体験やセンターの赤ちゃんからヒントをもらおうとよい。</p> <p>第12回 自身の乳幼児期を振り返ろうⅠ ※レポート提出 : ケアセンターでの学び</p> <p>第13回 自身の乳幼児期を振り返ろうⅡ グループディスカッション</p> <p>第14回 グループ発表</p> <p>第15回 授業のまとめと授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>志村聡子編 「はじめて学ぶ乳児保育」 (同文書院)</p> <p>「保育所保育指針解説」※授業時必ず持参すること</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>教科書と並行し、新聞記事からも、現在の保育状況、子育て環境、乳児期の子どもについての理解を深めるので、いろいろな新聞社の記事に目を通しておく。(週60分)</p> <p>赤ちゃんおもちゃ作成やスキンシップ遊びの発表に向け、自身が取り組む内容についての自主学習も進めておくこと。(週60分)</p>		

授業科目名	乳児保育		
授業担当者名	渡辺 桜		
単位数	2	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D P との関連)<ナバリングコード>	<p>本講義の到達目標は、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。 （「知識及び技能」◎、「思考力・判断力・表現力等」○） 232-1CH11-01</p>		
授業の概要	<p>乳児保育の意義や歴史的変遷等、乳児保育の原理・原則の部分を理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容や職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携などについて具体事例やビデオ視聴によって理解を深める。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業態度(40%)、テスト(30%)、提出物(30%)などにより総合評価する。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	<p>第01回 乳児保育を意義・目的 授業の目的と講義内容の概要説明。参考書の紹介。 第02回 乳児保育の役割 養護と教育の一体性 ビデオ視聴 第03回 乳児の発達を保障する環境と援助。ビデオ視聴 第04回 乳児保育の現状と課題 第05回 保育所における乳児保育 ビデオ視聴 第06回 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 ゲストスピーカーを招いて 第07回 乳児とその家庭を取り巻く子育て支援の場 第08回 乳児の生活と環境 第09回 乳児の遊びと環境 第10回 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 第11回 乳児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助やかかわり 第12回 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 第13回 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者との連携・協働 第14回 テストと解説 第15回 テスト返却・講評。授業のまとめと授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>志村聡子編 「はじめて学ぶ乳児保育」 (同文書院) 「保育所保育指針解説」※授業時必ず持参すること</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>教科書と並行し、新聞記事からも、現在の保育状況、子育て環境、乳児期の子どもについての理解を深めるので、いろいろな新聞社の記事に目を通しておく。(週60分)</p>		

授業科目名	社会的養護内容		
授業担当者名	石垣 儀郎		
単位数	1	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D P との関連)<ナバリングコード>	<p>ヒューマンケア学部教育目標と対人援助（保育士、児童指導員など）において社会に貢献できる人材となるため、下記の3つの到達目標を掲げる。</p> <p>1.国が掲げる社会的養護の政策を理解する。</p> <p>2.社会的養護の実態と内容を理解し、実践応用可能な知識を身に着ける。</p> <p>3.演習を通して、現場（臨床）実践に活用可能な技術（スキル）を身に着けることができる。</p> <p>（「専門知識」◎、「専門技能」○） 232-2WEL2-02</p>		
授業の概要	<p>授業の構成、並びに展開は次の通りである。</p> <p>社会的養護における「子ども」の実態を把握し、政策と事実を把握する。次に、把握した事実をもとに、社会的養護の「内容」を学習し理解する。このことを通して、被虐待児童や発達障害児童など、とりわけ専門的支援と対応が必要な子どもに対して、どのような「介入＝支援」が有効であるのかを演習を通して学習する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>レポート (30%)、授業態度 (30%)、試験 (40%)</p> <p>※授業態度は、授業形態が演習のため積極的に取り組む姿勢を評価します。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 社会的養護内容における「子ども」の支援 1.権利擁護</p> <p>第02回 社会的養護内容における「子ども」の支援 2.生存と発達の保障</p> <p>第03回 保育士の倫理と責務</p> <p>第04回 児童養護の体系と児童福祉施設の概要 1.施設養護</p> <p>第05回 児童養護の体系と児童福祉施設の概要 2.家庭的養護</p> <p>第06回 被虐待児童の理解と支援 1.虐待の実態</p> <p>第07回 被虐待児童の理解と支援 2.被虐待児童の支援</p> <p>第08回 中間の試験と前半のまとめ</p> <p>第09回 発達障害児童の理解と支援 1.発達障害児童の実態</p> <p>第10回 発達障害児童の理解と支援 2.発達障害児童の支援</p> <p>第11回 社会的困難を抱える「子ども」支援の方法 1.社会資源の活用</p> <p>第12回 社会的困難を抱える「子ども」支援の方法 2.社会的治療の方法・実践</p> <p>第13回 社会的困難を抱える子どもを育てる「親」への支援の方法 1.社会資源の活用</p> <p>第14回 社会的困難を抱える子どもを育てる「親」への支援の方法 2.社会的治療の方法・実践</p> <p>第15回 試験と全体のまとめ</p>		
使用教科書	<p>「社会的養護Ⅱ」：喜多一憲（監修）： みらい</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>シラバスに沿って授業展開を行うため、次の授業までに事前学習を行う。授業外学習の方法は「課題」を提示するので「思考：考えること」「自分の意見を持つこと」を意識して取り組んでほしい。専門用語などは事前に調べて授業内で理解すると良い。また、演習問題の多いテキストを採用しているのでよく読んで検討することを勧めます。</p>		

授業科目名	幼児・児童教育課程論		
授業担当者名	津金 美智子		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	<p>幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等における全体的な計画・教育課程及び指導計画の基本原則、その編成及び作成の実際について学ぶことを目標とする。そのために、それらの基準である「幼稚園教育要領」等の基本理念、「幼児期に育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「主体的・対話的で深い学び」の理解を深める。さらに幼児期にふさわしい生活や遊びの展開とともに小学校教育への接続を見通した教育課程の編成及び実施、評価を改善に生かす「カリキュラム・マネジメント」への理解を深める。</p> <p>(「知識及び技能」◎、「思考力・判断力・表現力等」○)</p> <p>〈232-1CH11-06〉</p>		
授業の概要	<p>幼児期の教育の目的・目標の達成に向けた全体的な計画及び教育課程の編成、それらに基づく指導計画の作成の意義や原則等、基本的な考え方について学習する。</p> <p>計画的・組織的に編成する手順、教育課程に基づいた指導計画の作成と展開、指導の過程における幼児理解に基づいた評価・改善等、カリキュラム・マネジメントの考え方について学習する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業及び協議等への参画態度（主体性・協働性）30%</p> <p>授業内容の理解度をチェックする試験（追試は行わない）30%</p> <p>指導計画作成・レポート40%</p> <p>以上3点から総合的に評価を行う。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 オリエンテーション（授業の目標・内容等の概要説明） 幼児期の教育の基本「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」</p> <p>第02回 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」等の基本理念 （「社会に開かれた教育課程」「学校教育において育みたい資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」）</p> <p>第03回 幼児期の教育と小学校教育との接続 （「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」①－⑤）</p> <p>第04回 幼児期の教育と小学校教育との接続 （「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」⑥－⑩）</p> <p>第05回 全体的な計画・教育課程の役割及び編成上の基本事項 「カリキュラム・マネジメント」の考え方</p> <p>第06回 教育課程に基づく指導計画の作成の基本的な考え方</p> <p>第07回 幼保連携型認定こども園・保育所等における全体的な計画</p> <p>第08回 指導計画作成上の基本的な事項について</p> <p>第09回 指導計画作成上の留意事項について</p> <p>第10回 小テストとフィードバック</p> <p>第11回 短期指導計画作成の実際（週案作成の実際）</p> <p>第12回 短期指導計画（週案）の作成・協議</p> <p>第13回 短期指導計画作成の実際（日案作成の実際）</p> <p>第14回 短期指導計画（日案）の作成・協議</p> <p>第15回 レポート提出と幼児理解に基づく評価 まとめ</p>		
使用教科書	<p>幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館）</p> <p>乳幼児教育・保育シリーズ「教育課程論」神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香 編著（光生館）</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>教育課程の編成・指導計画の作成には、その基準である「幼稚園教育要領」等の理解が必須であることから、幼稚園教育要領等の解説を熟読すること。</p> <p>指導計画の作成には幼児理解が基となることから、子どもケアセンター等でのボランティアを通して幼児の言動に潜む「幼児なりの見方・考え方」「幼児の遊びを通した学びの姿」を実際に捉えておくこと。また、具体的な遊びのイメージがもてるよう、幼児と一緒に関わる場面も積極的につくること。</p>		

授業科目名	子どもと環境〔保育科指導法Ⅰ〕		
授業担当者名	津金 美智子		
単位数	2	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D P との関連)<ナビリングコード>	<p>領域「環境」の指導の意義は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことである。幼児教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領等に示された領域「環境」のねらい及び内容(本授業においては3歳以上児)について、幼児期の教育・保育の基本や他の領域と関連させて理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(「知識及び技能」◎、「思考力・判断力・表現力等」○)</p> <p>〈232-1CH11-04〉</p>		
授業の概要	<p>①幼稚園教育要領等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>②幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>① 授業及び協議等への参画態度（主体性・協働性）30%</p> <p>② 授業内容の理解度をチェックする試験（追試は行わない）40%</p> <p>③ 指導計画作成・レポート30%</p> <p>以上3点から総合的に評価を行う。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 幼児教育・保育の基本理念と保育内容の領域「環境」 ESD教育との関連</p> <p>第02回 領域「環境」のねらい・内容について</p> <p>第03回 領域「環境」の内容の取扱い・保育者の援助と環境の構成 －自然環境との触れ合い－</p> <p>第04回 領域「環境」の内容の取扱い・保育者の援助と環境の構成 －子どもの思考力の芽生え－</p> <p>第05回 領域「環境」の内容の取扱い・保育者の援助と環境の構成 －文化や伝統に親しむ－</p> <p>第06回 領域「環境」の内容の取扱い・保育者の援助と環境の構成 －数量や図形等への関心・感覚－</p> <p>第07回 保育内容「環境」と小学校教育との接続 (幼児期の終わりまでに育ってほしい姿・幼児期に育ってほしい資質・能力)</p> <p>第08回 領域「環境」の具体的な保育の展開 －自然との触れ合い・生命尊重－</p> <p>第09回 領域「環境」の具体的な保育の展開 －子どもの思考力の芽生え－</p> <p>第10回 領域「環境」の具体的な保育の展開 －数量や図形等への関心・感覚－</p> <p>第11回 領域「環境」の具体的な保育場面を想定した指導計画の構想</p> <p>第12回 領域「環境」の具体的な保育場面を想定した保育の実際</p> <p>第13回 領域「環境」の保育の実際を通じた評価及び改善について</p> <p>第14回 テストと解説</p> <p>第15回 まとめ 現代的な諸課題 授業の振り返り</p>		
使用教科書	<p>幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館）</p> <p>保育所保育指針解説 厚生労働省編（フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省 厚生労働省（フレーベル館）</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>保育内容の領域「環境」を理解する上で、周囲の環境(自然や様々な現象、文化や伝統、地域における施設やいろいろな事象、情報等)に好奇心や探究心をもって関わるのが重要である。子どもと関わる保育者には、こうした環境に対する感性や感覚の豊かさが求められる。幼稚園教育要領等の理念や解説を理解するとともに、自分の周囲の様々な環境に感性を研ぎ澄まして関わり、目を凝らし、耳を傾け、心が動く体験を積み重ねてほしい。こうした感覚を通して子どもの環境への関わり方をイメージし、領域「環境」の内容を理解してほしい。</p>		

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		
授業担当者名	石垣 儀郎、横井 直子、大島 光代		
単位数	1	開講期（年次学期）	3年次後期～4年次
教員担当形態	複数	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナビリングコード>	<p>実地実習前は、実地実習を円滑に進めていくための知識、技術を習得し、実習において学ぶべき内容および自己の達成課題を明確にする。実地実習後は、実習体験をふり返り深化させる。</p> <p>（「専門技能」◎、「専門知識」○） 232－2PRA3－11</p>		
授業の概要	<p>1. 実地実習に向けて、自己の課題を明確化する。</p> <p>2. 保育現場で求められる計画について演習を通じて理解を深める。</p> <p>3. 実習施設で起こりうる事案を想定した実践的な事前学習を行う。</p> <p>4. 施設実習で学んだことを共有化し、保育専門職として必要な知識・技術・倫理観を高める。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業態度（60％）、レポート等提出物（40％）などにより、総合的に評価する。再評価は実施しない。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>【3年次後期】</p> <p>第01回 オリエンテーション</p> <p>第02回 これまでの実習のふり返りと今後の課題の明確化①</p> <p>第03回 これまでの実習のふり返りと今後の課題の明確化②</p> <p>第04回 実地実習を想定した保育の計画立案①</p> <p>第05回 実地実習を想定した保育の計画立案②</p> <p>【4年次前期】</p> <p>第06回 施設実習の意義と心構え</p> <p>第07回 実習目標について・実習記録の書き方</p> <p>第08回 施設実習に向けて必要な知識・援助・態度の学び①</p> <p>第09回 施設実習に向けて必要な知識・援助・態度の学び②</p> <p>第10回 施設実習で起こりうる事例の検討①</p> <p>第11回 施設実習で起こりうる事例の検討②</p> <p>第12回 事後指導について</p> <p>第13回 直前指導</p> <p>第14回 報告会</p> <p>第15回 報告会</p>		
使用教科書	<p>「施設実習の手引き」（4年次授業時に配布）</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、応用的実践力を身につけるようにする。グループ指導等を通じて、実習に向けての実践的学びを深める。</p>		

授業科目名	生活保育		
授業担当者名	津金 美智子		
単位数	1	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	既習の科目全体の知識・技能を基盤にして、子どもの発達や学びに必要な体験が確保されるとともに、子どもの興味や関心、意識や必要感などによって連続性のある生活や遊びの展開となるような保育の構想力・実践力の基礎を培う。 (「問題解決能力」◎、「専門知識」○) 〈232-1CHI2-18〉		
授業の概要	乳幼児期の発達の特性と環境を通して行う乳幼児期の教育・保育の基本の理解 遊びを通した総合的な指導の理解とその実際 環境の構成と教材の工夫、保育者の役割への理解と指導の実際		
学生に対する評価の方法	主体的な授業態度30% 対話を通して学び合う態度30% レポート作成40%		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 オリエンテーション（なぜ、「生活保育」なのか） 第02回 幼児教育の基本、環境を通して行う教育・保育の実際 第03回 幼児理解・幼児期の教育における「見方・考え方」とは 第04回 幼児理解に基づく環境の構成とその実際 第05回 幼児期の教育における教材の工夫 第06回 幼児期にふさわしい生活の展開とその実際 第07回 遊びを通した総合的な指導とその実際 第08回 幼児教育において育みたい資質・能力 事例を通して協議 第09回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 事例を通して協議 第10回 幼児期の教育と小学校教育との接続の在り方 事例を通した協議 第11回 幼児理解に基づいた評価の考え方 事例を通した協議 第12回 実践記録と評価 記録からの省察・協議 第13回 家庭や地域との連携 第14回 保育者に求められる専門性について 第15回 まとめ		
使用教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館） 乳幼児教育・保育シリーズ 「保育内容総論」 神長美津子・津金美智子・田代幸代 編著（光生館）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	教科書の内容を授業内に全て読み進めることはできない。教科書の予習、授業後のフィードバック、関連部分の自習を通して、授業内容の理解を深めるようにする。さらに、子どもケアセンターにおける保育士の保育の実際を見たり、子どもの様子を観察したり、子どもと遊びを一緒にしたりして、子どもの理解を深め、実習に向け理論と実践の一体化を図るようにする。		

授業科目名	教育実習指導 〔幼・小〕		
授業担当者名	渡辺 桜、想厨子 伸子、津金 美智子		
単位数	1	開講期（年次学期）	2年次後期～3年次前期
教員担当形態	複数、クラス分け	備考	幼児保育専攻、幼稚園教育実習指導用 ※2019年度入学生 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D・Pとの関連)<ナバリグコード>	本講義の到達目標は、教育実習(幼稚園)Ⅰ・Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にするとともに、実習体験を深化させることである。 (「思考力・判断力・表現力等」◎、「学びに向かう力・人間性等」○)		
授業の概要	幼稚園実習を円滑に進めていくために、幼稚園実習の意義、記録や指導案作成の考え方について再確認する。		
学生に対する評価の方法	授業態度(50%)、提出物(50%)などにより総合評価する。 欠席・提出期限が守れない等が3回になった場合は、原則実習を実施できない。 再評価は実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>■事前指導</p> <p>第1回 幼稚園教育の基本と学校教育の始まりとしての幼稚園の役割 幼小の接続 幼稚園実習の意義と目的 幼稚園実習の目的</p> <p>第02回 観察について―目的・観点・記録の取り方―</p> <p>第03回 参加について―方針・記録の取り方― 菱野幼稚園の概要について</p> <p>第04回 菱野幼稚園訪問 参加</p> <p>第05回 菱野幼稚園訪問 観察</p> <p>第06回 個別指導 菱野幼稚園の観察実習記録</p> <p>第07回 実技指導(クラス別)</p> <p>第08回 菱野幼稚園の観察記録についての学びを深める</p> <p>第09回 個人票等園へ送付する書類についての事務連絡 部分・1日実習について―内容・指導計画の書き方―研究保育について―内容・指導計画の書き方―</p> <p>第10回 実習目標について、園へ送付する書類回収指導計画の具体例から、幼児の年齢や時期に合った指導計画の書き方及び援助の在り方を学ぶ 幼稚園実習に際しての基本的な心構え、態度</p> <p>第11回 個別指導 部分指導計画</p> <p>第12回 クラス内意見交換会</p> <p>■事後指導</p> <p>第13回 幼稚園実習の反省会</p> <p>第14回 実習成果を踏まえての実践発表 実践発表に対するグループ討議及び質疑応答</p> <p>第15回 幼稚園実習全体のまとめ</p>		
使用教科書	幼稚園教育要領解説、幼稚園実習の手引き、記録簿ファイルは毎回持参すること。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	各自で手引きを熟読し、実習に備える。(週60分) 指導案等は、幼児の年齢毎に準備しておく。(週60分)		

授業科目名	教育実習指導 〔幼・小〕		
授業担当者名	渡辺 桜、想厨子 伸子、津金 美智子		
単位数	1	開講期（年次学期）	2年次後期～3年次前期
教員担当形態	複数、クラス分け	備考	幼児保育専攻、幼稚園教育実習指導用 ※2020年度入学生 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリグコード>	本講義の到達目標は、教育実習(幼稚園)Ⅰ・Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にするとともに、実習体験を深化させることである。 (「思考力・判断力・表現力等」◎、「学びに向かう力・人間性等」○) <232-2PRA2-03>		
授業の概要	幼稚園実習を円滑に進めていくために、幼稚園実習の意義、記録や指導案作成の考え方について再確認する。		
学生に対する評価の方法	授業態度(50%)、提出物(50%)などにより総合評価する。 欠席・提出期限が守れない等が3回になった場合は、原則実習を実施できない。 再評価は実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	<p>■事前指導</p> <p>第1回 幼稚園教育の基本と学校教育の始まりとしての幼稚園の役割 幼小の接続 幼稚園実習の意義と目的 幼稚園実習の目的</p> <p>第02回 観察について―目的・観点・記録の取り方―</p> <p>第03回 参加について―方針・記録の取り方― 菱野幼稚園の概要について</p> <p>第04回 菱野幼稚園訪問 参加</p> <p>第05回 菱野幼稚園訪問 観察</p> <p>第06回 個別指導 菱野幼稚園の観察実習記録</p> <p>第07回 実技指導(クラス別)</p> <p>第08回 菱野幼稚園の観察記録についての学びを深める</p> <p>第09回 個人票等園へ送付する書類についての事務連絡 部分・1日実習について―内容・指導計画の書き方―研究保育について―内容・指導計画の書き方―</p> <p>第10回 実習目標について、園へ送付する書類回収指導計画の具体例から、幼児の年齢や時期に合った指導計画の書き方及び援助の在り方を学ぶ 幼稚園実習に際しての基本的な心構え、態度</p> <p>第11回 個別指導 部分指導計画</p> <p>第12回 クラス内意見交換会</p> <p>■事後指導</p> <p>第13回 幼稚園実習の反省会</p> <p>第14回 実習成果を踏まえての実践発表 実践発表に対するグループ討議及び質疑応答</p> <p>第15回 幼稚園実習全体のまとめ</p>		
使用教科書	幼稚園教育要領解説、幼稚園実習の手引き、記録簿ファイルは毎回持参すること。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	各自で手引きを熟読し、実習に備える。(週60分) 指導案等は、幼児の年齢毎に準備しておく。(週60分)		

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		
授業担当者名	想厨子 伸子、青木 一起		
単位数	2	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	<p>教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。（「専門技能」◎、「意欲・行動力」○、「表現力」○、「コミュニケーション能力」○）</p> <p><232-3CH3-29></p>		
授業の概要	<p>この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び総括的評価テストなどで総合的に評価する。教職領域50点、専門領域50点とする。試験の欠席は原則として認めないので注意すること。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 ガイダンス及びリフレクション 〈全員〉 授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理（以下、教職関係）</p> <p>第02回 学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議）</p> <p>第03回 児童生徒理解と学級経営について（講義・演習）</p> <p>第04回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①（グループ討議・演習）</p> <p>第05回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②（ロールプレイング・ディベート等）</p> <p>第06回 教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習）</p> <p>第07回 事例研究のまとめ及び試験</p> <p>第08回 教職実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価（講義とグループ討議）（以下、保育関係）</p> <p>第09回 「遊び保育とは」集団保育における幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議</p> <p>第10回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究</p> <p>第11回 保育演習室での模擬保育、またはケアセンターでの実践・観察記録作成</p> <p>第12回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議</p> <p>第13回 12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・保育現場における諸課題について</p> <p>第14回 試験及び授業のまとめ ポートフォリオファイルの回収・点検</p> <p>第15回 保育実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価</p>		
使用教科書	<p>資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介)</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週60分程度）。</p>		

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		
授業担当者名	想厨子 伸子、浅田 謙司		
単位数	2	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	<p>教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。（「専門技能」◎、「意欲・行動力」○、「表現力」○、「コミュニケーション能力」○）</p> <p><232-3CH3-29></p>		
授業の概要	<p>この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び総括的評価テストなどで総合的に評価する。教職領域50点、専門領域50点とする。試験の欠席は原則として認めないので注意すること。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 ガイダンス及びリフレクション（全員） 授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理（以下、教職関係）</p> <p>第02回 学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議）</p> <p>第03回 児童生徒理解と学級経営について（講義・演習）</p> <p>第04回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①（グループ討議・演習）</p> <p>第05回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②（ロールプレイング・ディベート等）</p> <p>第06回 教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習）</p> <p>第07回 事例研究のまとめ及び試験</p> <p>第08回 教職実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価（講義とグループ討議）（以下、保育関係）</p> <p>第09回 「遊び保育とは」集団保育における幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議</p> <p>第10回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究</p> <p>第11回 保育演習室での模擬保育、またはケアセンターでの実践・観察記録作成</p> <p>第12回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議</p> <p>第13回 12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・保育現場における諸課題について</p> <p>第14回 試験及び授業のまとめ ポートフォリオファイルの回収・点検</p> <p>第15回 保育実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価</p>		
使用教科書	<p>資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介)</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週60分程度）。</p>		

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		
授業担当者名	渡辺 桜、栗田 千恵子		
単位数	2	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	<p>教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。（「専門技能」◎、「意欲・行動力」○、「表現力」○、「コミュニケーション能力」○）</p> <p><232-3CH3-29></p>		
授業の概要	<p>この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び総括的評価テストなどで総合的に評価する。教職領域50点、専門領域50点とする。試験の欠席は原則として認めないので注意すること。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 ガイダンス及びリフレクション 〈全員〉 授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理（以下、教職関係）</p> <p>第02回 学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議）</p> <p>第03回 児童生徒理解と学級経営について（講義・演習）</p> <p>第04回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①（グループ討議・演習）</p> <p>第05回 教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②（ロールプレイング・ディベート等）</p> <p>第06回 教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習）</p> <p>第07回 事例研究のまとめ及び試験</p> <p>第08回 教職実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価（講義とグループ討議）（以下、保育関係）</p> <p>第09回 「遊び保育とは」集団保育における幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議</p> <p>第10回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究</p> <p>第11回 保育演習室での模擬保育、またはケアセンターでの実践・観察記録作成</p> <p>第12回 保育演習室での模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議</p> <p>第13回 12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・保育現場における諸課題について</p> <p>第14回 試験及び授業のまとめ ポートフォリオファイルの回収・点検</p> <p>第15回 保育実践演習授業のまとめ(振り返り)と評価</p>		
使用教科書	<p>資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介)</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週60分程度）。</p>		